

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	04712000634
法人名	社会福祉法人 特会
事業所名	共生型 グループホーム さくらおか
所在地 (電話番号)	登米市米山町字桜丘大又232-2 (電 話) 0220-55-5160

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 8 月 25 日

【情報提供票より】(平成20年 7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	7 人	常勤 4 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6.8 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.1 歳	最低 64 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	登米市立よねやま病院、やすらぎの里サンククリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

敷地内に特養や知的障害者のグループホームが併設され、近くには市立病院や公民館等の公共施設が多い。医療連携体制をとり、前回課題の「重度化・終末期対応の指針」が作成され、「重度化・終末期ケアの確認」も行われている。勤務調整等の支援があるので外部研修の受講者が多く、資格取得も支援するなど人材の育成に力を入れている。起床・入浴・食事時間等は入居者のペースで行われている。万一夜間の災害には特養から応援にくるとい、協力体制が構築されている。ホームに入居前、ショートステイ利用が多く、ホームの職員や入居者が面会し、なじみの関係を作っている。終の棲家として、家族アンケートでも評価が高い。

si

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>要改善点は①理念を除き、②地域活動と地域住民との交流は地域の防災訓練への参加や図書館の利用等で地域住民との交流が図られている。③市との協力は、医療連携体制加算等で相談指導等を受け実現。④終末期の方針・態勢の課題は「重度化・終末期対応の指針」や「重度化・終末期ケアの確認事項」等の実施で改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員が分担し自己評価を書き話し合い、ケアマネージャーがまとめ、管理者が仕上げた。自己評価をすることにより、日常のケアを振り返り、気付きの点などは職員みんなで話し合い日々のサービスの向上に活かすよう努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年度は7月に開催され、会議の議題は地震対策で地域の住民の協力問題には地域の防災訓練に炊き出しなどをして協力すること。欠席が多い運営推進委員には増員が3月に提案され増員がはかられている。入居者を喜ばず流しそめん等も提案され、職員会議で話し合い、共通認識のもと実現しサービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族来訪時や手紙・電話等のつど、意見や要望を聞き出している。意見箱を設置し、出された意見や要望は14日以内に解決策を講じている。毎月生活の様子を写真や書面にて送付、健康状態等は必要に応じて電話し、家族の意見を聞き対応している。苦情の窓口として第三者委員を定め、市や国保連等と共に玄関に掲示している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会は未加入、前回の課題の地域の活動や住民との交流は地区の防災訓練の参加や炊き出し等を企画し、芋煮会をかねて地域との交流を図ろうとしている。入居者が地域の公民館にある図書館を利用して、地域の人々と交流もしている。今後地域の運動会やどんど祭等への参加も検討している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に「地域との連携」とあるも、ホーム独自の経営理念には人生の先輩として尊び、一人ひとりの思いを大切に笑顔と思いやりの心を育み「共に暮らす」、安心して清潔、笑顔の絶えない家の実現などあるが、地域生活の継続や地域との関係性強化等の地域密着型サービスの使命をうたっていない。	○	理念はホームが目指すサービスのあり方を端的に示すものであるから、ホーム独自の理念に地域密着型サービスとしての使命を入れるようにお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議で理念を確認しながら話し合い、日常の言葉かけや態度、記録等に活かされ、玄関先にも掲示し、いつでも誰もが確認できるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	前回課題の地域との交流は保育児とのゲーム、高校生によるコーラス、地域のボランティアの歌謡や舞踊等の受け入れ、地区の防災訓練に参加、入居者の図書館利用等地域の人々との交流を図っている。今後は地域の運動会やどんと祭等への参加も検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員が分担で記載し、皆で話し合いケアマネジャーがまとめ、管理者が仕上げた。自己評価をすることにより、日々の介護を振り返りみんなで話し合い、よりよいサービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月の会議では出席が悪く、委員の増員が提案され、7月の会議から民生委員や家族、入居者は各1名から2名に増員。議題は事業計画や活動報告、流しそうめん、地震対策に地域の協力を得るため、地域の避難訓練に炊き出し等が提案され、職員会議で話し合い実現できるように検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前回課題の市から協力を得られるよう積極的な働きかけは、医療連携体制加算など登米市や関係機関の担当者に相談し、医療連携や書類、勤務体制など適切な指示を仰ぎ実現できている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に写真やビデオ、ケース記録等を確認してもらい、預り金は小遣い帳のコピーや領収書を送付している。来訪困難者には月1回生活の様子を写真や手紙、電話で報告している。ホーム便りは3ヶ月に1度発行し送付。健康状態等は必要に応じて電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や手紙、電話等のつど意見や要望を聞き出している。意見箱を設置して、出された意見や要望は14日以内に解決策を講じている。第三者委員を定め施設外苦情窓口の連絡先を掲示して出しやすいように配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が出ると分かった時点で、職業安定所に募集依頼し、欠員が生じないよう努めている。担当制を取り入れ、入居者と職員の相性を見極め、安心して過せるよう配慮し、引継ぎには3ヶ月かけ心理的なダメージを少なくするように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の受講希望者には勤務調整して受講しやすくしている。希望なしの場合には指名することもある。毎月職員会議で研修内容の伝達会を開催し、研修報告書は全員に回覧して共有している。個別に研修計画を立て、外部研修の参加を進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城共生ネットに加盟し、11ホーム回り番で勉強会を行っている。NPO県グループホーム協議会にも加盟し、情報交換や相互評価、勉強会に参加し、職員の悩みやストレスの解消、不安の軽減や気持の切替等に役立てている。9月にほほえみホームとの交換研修も予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に併設の特養のショートステイ利用が多く、その間、入居者や職員が訪問し、人間関係を築き馴染めるようにしている。入居前に、職員が自宅を訪問したり、希望者にホームに来てもらい雰囲気を感じてもらえるよう話し合いを持ち、入居日を決めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「入居者は人生の先輩である」を職員は共有し、生活の中で入居者の得意とする活躍の場を設け、花の植え方や野菜作り、料理、パッチワーク等を教えてもらいながら、一緒に作ったりしながら過している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者の言葉や表情、様子などで思いや意向、気づきのあった時は個人記録に書き留め、職員で話し合いをしている。把握が困難な人が不安な表情をしている時などは、長い期間で原因がどこにあるのかを判断するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者との日々のかかわりの中や来訪時や電話等で家族の思いや意見を聞き留め、介護計画に反映させている。職員の意見や気づきを含め話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月入居者の状態をまとめ、入居者や家族の意向を確認し、体調等の変化が生じた場合は状況に応じて、かかりつけ医や栄養士等の意見を取り入れ、新たな介護計画を作成して了解を得るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の希望を取り入れ個々の満足を高めるため、かかりつけ医等への通院や特別な外出、外泊などの支援は柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は原則家族同行であるが、要望があれば代行も行っている。入所以前からのかかりつけ医を利用している人が多いので、受診は本人と家族の意向を第一に考え、連携を取りながら行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	前回課題の「重度化対応・終末期ケア対応指針」を定め、「重度化対応・終末期ケアにおける確認事項」に、入居者や家族等身元引受人等の合意である署名捺印を得て、医療連携体制を整え実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者を傷つけないように人前であからさまな介護をしたり、誘導の声がけをしないよう、さりげなく丁寧に言葉掛けや対応をしている。個人記録は保管場所を決め、個人情報保護のため施錠している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起きたい時に起床し、起きた時点で食事をとり、入浴も入りたいときに入るよう、入居者のペースを大切に、希望に添える支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の身体状況や嗜好を考慮して、食材の買物や調理、盛り付け、後片付け等は入居者と共に行って食事や会話を楽しみ、職員はさりげないサポートをしている。食材は地もので旬なものを選び、季節感を味わうようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の気持や習慣に合わせ、希望やタイミングで入浴してもらい、1対1のふれあいを大切にしている。同性介助を原則とし、どうしても異性介助になる場合にはシャワーで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜づくりや草取り、食事作りや食後の片付け、趣味を活かしたパッチワーク等、入居者の能力や経験を活かすような役割を持ってもらい、気分転換や生きがいになるよう支援している。神割崎や定義山等へ遠出をして気晴らしもしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよく、入居者の体調の良い時には、入居者の希望に添って散歩やドライブ、外泊等習慣や楽しみごとに合わせ、食材の買物や美容院等に出かけている。天気や体調の優れない時などすぐに難しい時は、代替案を示し対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出しそうな時はさりげなく声がけしたり、ついて行ったりしている。ひとり外出の場合には同一敷地内にある併設の特養から電話連絡等もある。薬品や洗剤等の入った部屋には安全のため施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの防災計画に基づき、防災訓練は夜間想定も行っている。地域の防災訓練にも参加、地域の人々の参加協力を得られる避難訓練も計画中である。地元消防団長に協力を依頼して、訓練の仕方などアドバイスを貰っている。万一ホームが夜間被災した時には併設の特養の支援体制もとられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を個人ファイルに記録し、職員が共有し対応している。それに応じ、午前や午後のおやつ等で必要量を調整している。排尿を心配し水分を控える入居者もいるので、不安を軽減し支援方法を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けの通路など天窓で自然採光を取り入れ、木の香りやぬくもりを感じるホームである。季節の花や手造りのパッチワーク、写真などを飾り季節感を感じさせ、居心地のよい共用空間である。趣味や家族等で使える掘炬燵のある和室もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみの家具や写真、日用品など、家族等の協力で自宅から持ち込まれて、安心して過ごせるトイレ付の居室である。入居者の作品等も飾られて環境作りがされている。入居者と職員が写真や手造りのはり絵などを飾ってよりよく過ごせる居室をさらに検討している。		